

一般質問

(要旨)

自由民主党議員団 戸張孝次郎

区をはじめ官公庁からの配布物と

町会の関係について

問 先日の区政懇談会では、町会に対して、区やその他官公庁の配布書類が多く、必要最低限にして欲しいとの要望があった。町会では人口減によって少ない役員が配布物を持って余している。千代田区民世論調査では、区からの情報収集として広報千代田は関心が高く、区のチラシ等は関心が低かった。そこでチラシ等は、広報千代田と包含して発行しては。また、出張所職員等が出向き配布しては。区民と行政の双方向からの情報交流が強く求められているが、区民と血の通った情報の共有化を一層図る必要があるがどうか。

答 配布物は、必要最低限となるよう庁内にも周知徹底し、広報千代田の内容拡充に努めていく。また、他の官公庁にも要請していく。ホームページ等の多様なメディアを用い、今後も区民と情報共有化に努める。

福祉作業所の整備状況について

問 社会全体では、バリアフリー化が進み、暮らしやすい街づくりに取り組んでおり、障害者の問題は、地域全体で助け合っていくことが必要。福祉作業所は、利用者の高齢化や建物の老朽化によりトイレ等が使いづらくなっている。使いやすく、働きやすい環境にするためにも早急な移転整備の必要がある。

答 利用者や保護者の切実な要望は認識している。施設整備は施策展開の拠点となるものであると考え、具体的な計画を進めていく。



よーし、ほくもがんばろうっと

自由民主党議員団 桜井ただし

自由民主党議員団 桜井ただし



さあ、みんな行こうよ！

増え続けるカラスとごみ問題について

問 カラス問題の検討と対策のため東京都東野生生物対策連絡会を発足したが、区への連絡は、有楽町駅前、神田駅前地区で飲食店街を対象にごみの早朝収集を行っているが、その評価と今後エリアを広げたい考えは。一部の地域で防鳥ネットを使用しているが、区民への周知は十分か。カラスは視覚によってごみを漁る事から、ポリバケツの利用、ごみ出しのルールの徹底等工夫すべき。カラスによる被害対策として、公園にはふたが付いた横入れのごみ箱を設置すべき。

答 情報提供と協力依頼を受けている。カラスが少なくなった「通勤の時間帯にごみがなく気持ちよい」等の声がある反面、「時間が早すぎてごみが出せない」等の意見があった。また、区民の要望をうかがい、エリア拡大を検討。ごみ集積所のスペースやネットの維持の問題等があり、今後さらに区民へのPRを徹底。特に事業者に対しては食品衛生講習会等でルールの徹底を強化。容量や数も含めて適切なごみ箱を設置し、快適な公園利用に供したい。

区民斎場について

問 区には現在、千代田万世会館があるが、遠くに行きづらく、会葬者に不便をかけるため、利用できない等の悩みも聞かれる。第二の斎場設置について、区の考えは。

答 設置には十分な検討が必要。当面、区民集会室等での斎場的な利用を、区民の声を聞きながら検討していく。

自由民主党議員団 松本佳子

幼児教育の中の道徳教育について

問 幼児期における「心の教育」の重要性は再三触れてきた。文部省の具体的な指導のあり方は家庭教育を推進するために様々な機会をとらえて言われている。本区においても早急な対応をすべきではないか。

答 家庭はもちろん、学校、地域において徹底した教育が必要であり、子ども、家庭に関するあらゆる問題に対応し、適切な支援をしていく。

地域に開かれた幼稚園・学校の具体例について

問 学校施設の夜間利用を積極的にすべき。学校図書館の利用を充実すべき。学校等の施設の教材や教具を共通利用等にすべきと考えるがどうか。

答 夜間利用も含め休日等も有効に活用している。今後も地域住民の利便性を考えていく。環境整備の充実に努める。貴重な教育財産を有効活用していく。

幼・保の特徴を生かした

運用と就学前教育について

問 幼稚園・保育園の特徴を認識し合い、より良い乳児・幼児の成長を図るべきと考えるがどうか。また、就学前の教育をどのように指導しているのか。

答 地域や保護者の実情に応じ、幼稚園と保育園が連携・協力し保護者の子育てを総合的に支援していく。また、関係部局と幼稚園、保育園の在り方を検討していく。



みんなで作ったポップコーン

公明党議員団 大串博康



うーん、どうしようかなー

「ゆとり」と学力向上の

バランスをどう図るのか

問 平成14年度から新学習指導要領により授業時間も3割減となる。学力低下が懸念される反面、そこから生じるゆとりにより、総合的な学習が新設される。区はどのようにこのバランスをとり、学力向上を図るのか。

答 学習内容と学習指導方法の両面の改善により、ゆとりと学力向上のバランスを図っていくべきと考えている。

「ゆとり」と「自由化」に対する

家庭・地域社会の備えはできているか

問 地域が教育を理解し、自主的に教育に関わっていくことが地域の教育力であり、備えである。子どもを中心に、家庭、地域社会、学校が教育の目的を共有していくことが重要であると考えられているがどうか。

答 教育委員会として、学校とさらに連携し、教育力向上の支援や家庭・地域社会への働きかけを行っていく。

学校の裁量権の拡大、自主的な運営方法は

問 国の一元管理から学校ごとの裁量権の幅を広げる教育の地方分権を迎え、区は特色ある教科・学校づくりと、子供の多様性と自主性を尊重した学校運営を行うべき。

答 学校管理運営規則を改正し、校長の裁量権を強化。また、毎年研究奨励校を指定し、特色ある教育活動の開発に努めていく。